

評価基準 A：実施した、又は実績が向上した B：検討した、又は実施したが十分な効果なし
C：実施しなかった、又は実績が低下した

参考資料1

[1] 緑の資産の保全と継承

事業別 (下線：重点プロジェクト)	事業概要等	平成30年度からの 取り組み状況	評価	評価の視点
1-1 板橋区緑の保全方針による樹林地等の保全				
【NO.101】 特別緑地保全地区 制度の活用	保全方針における特別保全樹 林等への制度の活用を進めま す。	R2年度：緑確保の総合的な方針の改定 R3～4年度：一部の土地所有者に緑保全の意向確認を実施 R5年度：大門東の森の特緑保指定を調整中 ※R6.8時点で新規の指定はなし	A	土地所有者への意向確認を行い、大門東の森では特別緑 地保全地区の指定に向けた具体的な取組があったため。
【NO.102】 市民緑地制度の活用	一般開放が可能な民有緑地 への制度の活用を進めます。	市民緑地2か所→1か所（大門東の森の都市公園化による） 新たな市民緑地を検討中	B	市民緑地契約制度を活用しており、うち1か所は都市公園 化に伴う減少のため。
【NO.103】 保存樹林・竹林制度 の運用	良好な樹林地等の保全を支援 する制度として運用します。	(H29年度末→R6年度12月末の増減) 保存樹林:39,988.00㎡→30,462.57㎡ (▲9,525.43㎡) 保存竹林:1,268.86㎡→853.99㎡ (▲414.87㎡) ※新規指定に向けた所有者への意向確認の実施はなし	C	保存樹林・竹林ともに、減少傾向にある中、新規指定に向 けた、新たな取り組み・所有者への働きかけや、樹林地等の 保全に向けた新たな制度の検討を行っていないため。
【NO.104】 樹林地管理方針の検 討	生物多様性向上に向け公園 内樹林地の維持管理手法を 検討します。	令和4年度に板橋区樹林地管理方針を策定し、区が管理する樹林地の維持・ 管理について方針を定めた。令和6年度に、個々の樹林地について、具体的な 維持管理手法を検討するために現地踏査を開始している。	実施済	樹林地管理方針を策定したため。
【NO.105】 税制改正など国・都へ の要請	都市部の貴重な樹林地保全 に向けた税制改正等を要請し ていきます。	継続（特別区長会要望）	B	要望しているが、税制改正までは至っていないため。
1-2 歴史ある大径木の保全				
【NO.106】 保存樹木制度の運用	大径木の保全を支援する制度 として運用します。 ※ 名木等への助成強化を検 討します。	(H29年度末→R6年度12月末の増減) 保存樹木:1,826本→1,630本 (▲196本) ～R6年度：保存樹木調査の実施 ※新規指定に向けた所有者への意向確認の実施はなし	C	樹木調査をする等、継続して保全に努めているが、指定本 数は減少しており、区で新たな取り組みがなかったため。
【NO.107】 景観重要樹木の指定	公園内樹木への指定も視野 に、制度の活用を進めます。	既指定：川越街道五本けやき（平成23年度） 新規指定：なし（担当部署間で課題を共有）	B	平成23年度に指定してから新規での指定はないが、制度を 継続したため。
【NO.108】 保存生垣制度の運用	緑の街並みの保全を支援する 制度として運用します。	(H29年度末→R6年度12月末の増減) 保存生垣:3,384.40m→3,027.45m (▲356.95m) ※新規指定に向けた所有者への意向確認の実施はなし	C	継続して保全に努めているが、延長は減少しており、新規指 定に向けた新たな取り組みや緑の街並み保全に向けた新た な制度の検討がなかったため。
【NO.109】 区登録記念物となっ ている名木等の保全	保存樹木制度を運用します。 ※ 名木等への助成強化を検 討します。	継続して名木・古木の管理を補助 【工事助成】名木・古木の樹勢回復のための調査・治療・工事 R6.12月末時点:申請実績なし	B	新規登録・指定はないが、保全は継続したため。
1-3 板橋らしさを代表する緑の景観の保全				
【NO.110】 板橋十景・石神井川 桜並木の魅力向上	桜並木の維持保全、ライトアッ プ等による魅力向上に取り組み ます。	（桜並木の維持保全）R2年度に街路樹危険度診断委託にて、中板橋エリア を中心とする桜並木の維持保全のための調査を実施。R4年度に石神井川緑 道樹木危険度診断調査委託にて、加賀エリアを中心とする桜並木の維持保全 のための調査を実施。R6年度に街路樹危険度診断委託（南部1）にて、再 度中板橋エリアを中心とする調査を実施中。またR4・5年度に加賀2-11先の 石神井川緑道について、桜並木保全のための植栽樹改修等を行った。 （ライトアップ）R2、3年度を除き実施	A	桜並木の維持保全やライトアップを行い、魅力向上に努めた ため。
【NO.111】 景観形成重点地区の 緑の保全と充実	地区特性を活かした良好な緑 の景観形成を図ります。	既指定の4地区（①板橋線緑軸地区、②石神井川軸地区、③加賀一・二丁 目地区、④常盤台一丁目・二丁目地区）に加え、令和4年度に板橋宿不動 通り地区を追加指定した。 また、赤塚四・五丁目地区の追加指定を目指し、地元勉強会により検討中。	A	追加指定を1地区行った。また、さらに1地区の追加指定 に向けた検討も行っており、地区特性を活かし、みどりを活用 した街並みの形成を図っているため。

評価基準 A：実施した、又は実績が向上した B：検討した、又は実施したが十分な効果なし
C：実施しなかった、又は実績が低下した

参考資料1

[2] 農のみどりの保全と活用

事業別 (下線：重点プロジェクト)	事業概要等	平成30年度からの 取り組み状況	評価	評価の視点
2-1 農のみどり保全重点地区における取り組み				
【NO.201】 農業園の整備	平成32（2020）年度開設 予定（赤塚五丁目）	赤塚植物園農業園は令和2年度に整備完了済み。 同年5月より開園	実施済	農業園が令和2年度に整備・開園されたため。
【NO.202】 農のみどり保全重点 地区における事業推 進計画の検討	農の風景育成地区制度の活 用等を含め、農のみどり保全重 点地区における事業推進計画 を検討します。	H30～R1年度 農のみどり保全重点地区（成増四丁目地区）における事業推進計画の検討 区民農園：減少傾向 生産緑地：減少傾向 保存樹林・竹林・保存樹木：減少傾向 景観重要樹木：減少傾向 特別緑地保全地区：増減なし 農の風景育成地区：未指定	C	成増四丁目地区での事業推進計画を検討したが、農地は減少傾向のものが多いため。
2-2 生産緑地地区の指定による農地の保全				
【NO.203】 生産緑地地区の指定	生産緑地地区の指定による農 地の保全を図ります。	（H29年末→R6年末の増減） 68地区9.83ha→53地区7.61ha （▲15地区 ▲2.22ha） ・令和3年度までに、特定生産緑地対象地区の約99%を特定生産緑地に指 定済（R6.9現在） ・令和6年度1地区に新規追加指定（約0.02ha）	C	特定生産緑地への切り替えや新規指定もあったが、生産緑 地及び特定生産緑地の総面積は減少しているため。
【NO.204】 指定面積基準の緩和 (m)	※平成30年条例施行（最 低面積基準500㎡⇒300 ㎡）	H30:条例施行	実施済	平成30年度に実施済みのため。
2-3 農とのふれあいの推進				
【NO.205】 農業公園等の整備	農のみどり保全重点地区等 において、農とのふれあいの場 の創出に取り組みます。 ※農業園の整備（赤塚五丁 目・平成32（2020）年度開 設予定）	赤塚植物園農業園は令和2年度に整備完了済み。同年5月より開園した。	A	令和2年度に「赤塚植物園農業園」を整備完了済みのた め。
【NO.206】 区民農園の開設	農地所有者から農地を借用 し、区内農地の保全を図りま す。	（H30年度→R5年度の増減） 39農園4.4ha→29農園3.7ha（▲10農園 ▲0.7ha） ※毎年発行の「農業委員会だより」において、区民農園用地の募集記事を掲載 している。 ※区民農園の利用募集受付は年度ごとに行っており、申込倍率は、毎年1.5倍 ほどと、区民から好評を得ている。	C	農業委員会だよりでの新規用地募集の広報を行ったり、区 民農園の利用募集では高倍率ではあるものの、区民農園 の総数は大幅に減少しているため。
【NO.207】 農業体験農園の運営 農のイベントの実施 板橋ふれあい農園会 の活動	農とのふれあいの機会の充実を 進めます。	（農業体験農園の運営） 年間通して収穫体験実施（年4回実施）※R5 （農業まつり） 令和2、3年を除き、毎年開催 （板橋ふれあい農園会） 小中学校に区内産野菜を出荷	A	各種イベントの実施により、農とふれあえる機会の充実 に努めているため。
2-4 農福連携の取り組み				
【NO.208】 農福連携の取り組み の検討	障がい者福祉の視点から農との 連携の取り組みについて検討し ます。	R1：赤塚地区で「農福連携農園」のサマカン不採択。 R2.7事業者との協定締結 R2.8ソーシャルファーム わーくはびねす農園Plus「東京板橋」開設 R3.10ソーシャルファーム わーくはびねす農園Plus「東京板橋第2」開設	A	板橋区の障がい者が優先的に農園に就労することができる 機会を設けることができた。
2-5 農業振興施策の展開				
【NO.209】 農業体験学校の運営	農業技術を持った人材育成に 取り組みます（平成30年度開 設）。	H30年度開設 ○通年型講習 受講生：16名 受講回数：年間29回実施 ※R5実績	A	農業体験学校を運営し、人材育成に努めているため。
【NO.210】 農業経営支援のため のネットワークづくり	農業経営に係る相談・支援機 能を持つネットワークの構築を 図ります。	各関係機関と調整中 ※認定農業者支援チームを設置しており、チームのメンバーである東京都農業関 連部署等と情報共有を行いながら、ネットワーク構築を図っている。 ※令和6年12月3日、認定農業者の認定（更新）について、認定農業者支援 チームによる審査会が行われ、認定農業者2名の認定（更新）を行った。	B	認定農業者の更新を行ったほか、ネットワーク構築に向けた 情報共有を行っているため。
【NO.211】 板橋区版6次産業の 展開	区内商店街の惣菜店などへの 区内産野菜の供給戦略等を 展開します。	区内農業者が東京クラフトリキール合同会社にリキール用の果樹類を出荷。	B	区内産果樹類の出荷ができたが、一部の成果であり、農家 と加工会社をつなげる仕組みを作ったわけではないため、Bと した。
【NO.212】 他の産業分野との新 たな連携の促進	農業と商業の相乗的発展をめ ざし、区内農産物による商店街 の活性化を検討します。	区内の店舗が実施する区内農産物を使用した商品開発に対して補助金を交付 することで、商品開発を支援する補助メニューを板橋区産業振興公社で用意して いる。（令和5年度は実績1件）	A	補助メニューが活用されたということで、農業・商業の発展に 向けて連携できたと言えるため。

評価基準 A：実施した、又は実績が向上した B：検討した、又は実施したが十分な効果なし
C：実施しなかった、又は実績が低下した

参考資料1

[3] 生物多様性の向上による生態系の保全と再生

事業別 (下線：重点プロジェクト)	事業概要等	平成30年度からの 取り組み状況	評価	評価の視点
3-1 エコロジカルネットワークの形成				
【NO.301】 エコロジカルネットワーク形成方針に基づく生物多様性の向上	公園・緑地や水辺の自然性の向上、街路樹・緑道などによる緑のネットワークの充実を進めます。	緑化の推進に関する条例に基づき、マンション建築の際の自主管理歩道に街路樹植栽を指導した（詳細な数値は不明）	B	街路樹植栽により、エコロジカルネットワークの形成に向けた一助となる取組が行えているため。
【NO.302】 ビオトープの整備・管理	ビオトープの新規整備については、良好な日常管理が見込める箇所について進めています。	R3年度：舟渡小学校、緑小学校にビオトープを整備 エコポリスセンターに設置しているビオトープを継続して管理し、環境学習等で活用した。 令和5年度から月に一度、ビオトープ開放日を設け、開放日にはエコポリスセンタースタッフが立ち合い、誰もが気軽にビオトープを見学できる環境を整えた。	A	2校で新規整備を行うことができたため。
【NO.303】 自然環境実態調査の実施	区民の協力を得ながら、区の自然環境の把握に努めます。 「緑地・樹木の実態調査」「湧水地点数調査」（5年毎調査）	【湧水地点数調査】H30、R5実施 【河川生物調査】石神井川と白子川を隔年で実施 【区民参加型いきもの情報共有事業】（R1～3年まで実施、R4年度から「いたばし・いきものアルバム事業」として実施 （区民からいきもの写真と情報を投稿してもらい、投稿結果を区ホームページ、動画、パネルにして公開している。） R6年は、R5年に投稿された写真を区役所1階イベントスペースにてパネル展示した。 【緑地・樹木の実態調査】R1、R6年度実施 【生物多様性に関する基礎調査】次期環境基本計画策定のための区内の動植物の生息状況を調査した。	A	湧水地点数調査や河川の生物調査、樹木の実態調査を実施したため。
【NO.304】 外来生物への対応	ハクビシンなどの外来生物への対応を進めます。	捕獲頭数 ハクビシン70頭、アライグマ51頭 相談件数 1,604件（令和6年11月末時点） チラシを新規作成し、回覧板で自治会、区民事務所、地域センターに広報活動を行っている。	A	生態系維持のために、外来生物の駆除や広報等を行ってきたため。
3-2 区の花ニリンソウなど山野草の保全				
【NO.305】 区の花ニリンソウの保全とPR	区の花ニリンソウの保全とPRを通じて、自然環境保全への意識啓発を進めます。	【ニリンソウガイドツアー】R2を除き実施 【ニリンソウ展示】 毎年実施 【ニリンソウ月間】 R2を除き実施 【ニリンソウの育て方講習会】年度内2回予定	A	緑のガイドツアーやイベント等を実施しているため。

[4] うるおいのある水辺と湧水の保全

事業別 (下線：重点プロジェクト)	事業概要等	平成30年度からの 取り組み状況	評価	評価の視点
4-1 荒川将来像計画による自然地の保全と活用				
【NO.401】 自然系ゾーンの整備	(Ⅰ・Ⅱ期) 生物生態園利活用推進 (Ⅲ期) 中規模自然地の整備	H30、R1に生物生態園において緑のガイドツアーを実施 中規模自然地については未整備	A	かわまちづくりにおいて、整備内容及び利活用について検討しているため。
4-2 親しめる水辺づくり				
【NO.402】 親水公園の活用	親水スポットの魅力向上に取り組めます。	見次公園 ポート場 営業日：3/20～10/31の土・日・祝・休日 営業時間：10時～17時（3・10月のみ10時～16時） H30～R5年度にかけて 13337隻 舟渡水辺公園 R6年度：隣接する大型物流施設（MFLP・LOGIFRONT東京板橋）整備に合わせ、事業者と連携し、遊歩道や事業者敷地内に河川を望めるスポットを整備し、水辺空間の魅力向上に努めた。	A	見次公園でのポート貸し出しを行うことで親水公園として活用することができた。（継続案件） また、舟渡水辺公園については、事業者と連携して水辺空間の魅力向上に努めることができたため。
4-3 湧水の保全と活用				
【NO.403】 湧水保全地域における湧水の保全と活用	湧水の保全とともに、見える化に向けた検討を進めます。	【湧水量測定】毎月実施 場所 ①不動の滝②赤塚城址下③志村城山公園④御手洗池 【湧水の周知】R4、5年度に実施（以下2か年の成果） X（旧ツイッター）11回、ワラインイベント2回、 区公式LINE1回、P展示4回 緑のガイドツアー（R1、2年度実施）小豆沢コース 赤塚探検隊（湧水ツアー）の実施（R5年度）（子ども9名、保護者6名参加） 赤塚探検隊（不動の滝見学）の実施（R6年度）（子ども5名、保護者4名参加）	A	継続して湧水量調査や緑のガイドツアー等湧水の周知を行うことができたことに加え、アクションプランとして湧水ツアーを実施し、湧水の魅力を子ども向けにも伝えることができたため。

評価基準 A：実施した、又は実績が向上した B：検討した、又は実施したが十分な効果なし
C：実施しなかった、又は実績が低下した

参考資料1

[5]みどりの創出による快適なまちづくり

事業別 (下線：重点プロジェクト)	事業概要等	平成30年度からの 取り組み状況	評価	評価の視点
5-1 街並みの緑化推進				
【NO.501】 接道部緑化助成制 度の運用 (接道部緑化の推進)	接道部の緑化工事に対して助成支援を進めます。	H30年度：要綱改正（大阪北部地震の発生により、ブロック塀の生垣化にかかる助成内容を拡充（助成率50%→100%）※R2年度までの時限措置 助成の実績 R1～R6年度12月末 20件	A	助成制度を活用した接道部緑化について一定の成果があったため。
【NO.502】 緑化指導による緑化 (接道部緑化の推進)	※ 緑化指導基準の改正を検討します。	R4.7 緑化指導基準の改正 H30～R6年度12月末の緑化指導の実績 地上部緑化実績面積 97298.12㎡ 屋上部緑化実績面積 5692.63㎡ 高木・小高木植栽本数 11014本 中木植栽本数 34554本 低木植栽本数 260267本 接道部緑化延長 2976.85m	A	緑化指導基準を改正するとともに、継続して緑化指導による緑の創出ができたため。
【NO.503】 街なかの緑化推進 (接道部緑化の推進)	※ 界わい緑化推進プログラムの導入を検討します。	H30～R3年度 自治体が行う民有緑化に対して東京都公園協会が支援する「界わい緑化推進プログラム」を検討 接道部緑化の基準改正を実施（NO502と重複）	C	緑化指導による接道部緑化の推進はできたが、「界わい緑化推進プログラム」を活用したプランナー派遣等の新たな制度導入には至らなかったため。
【NO.504】 緑化推進地域の指定 (接道部緑化の推進)	※ 平成30年度指定予定	未実施	C	緑化推進地域の指定に至っていないため。
【NO.505】 市民緑地認定制度の 活用	※ 認定条件の検討を行います。	H30～R4年度 要件を検討 R5年度 未定	C	制度導入の検討が進んでいないため。
5-2 街路樹の質の向上				
【NO.506】 街路樹整備と老朽樹 木更新 歩道植樹帯の見直し 検討 維持管理の質の向上	街路樹の質の向上に向けた取り組みを進めます。	H30～R6年12月の実績 中・高木植栽 232本（更新含む） R4年度 区職員向けの研修実施 R6年度 区職員向け研修実施予定	A	街路樹の更新をはじめとした、質の向上に努めたため。
5-3 みどりで快適・安全なまちづくり				
【NO.507】 屋上緑化・壁面緑化 助成制度の運用	屋上緑化、壁面緑化工事に対して助成支援を進めます。	壁面緑化助成実績 なし 屋上緑化助成実績 R1～R6.8末 2件（59.85㎡）	B	6年間で助成実績が2件と実績はあるが、十分に助成制度が活用されたとは言えないため。
【NO.508】 緑のカーテンの普及・ 啓発	公共施設とともに、区民への普及・啓発を進めます。	公共施設へは、継続して資材・苗・土のリサイクル材の提供による支援を行っている。区民へは、コンテストやSNS等を通じて普及啓発を行っている。	A	公共施設や区民に対して、普及・啓発事業を継続して行ったため。
【NO.509】 校庭の芝生化	メンテナンスのノウハウを蓄積しながら、芝生化の推進を図ります。	（H29年度末→R5年度末の増減） 校庭芝生化面積 9,490㎡→8,972㎡（▲518㎡）	C	高島第三中学校の校庭の芝生がうまく生育せず、校庭利用に制限が生じることになったため全面廃止したことにより、518㎡減少したため。
【NO.510】 みどりによる防災機能 の向上	接道部の緑化推進や、公園緑地の防災性の向上を図ります。	大阪北部地震の発生を受けた、接道部緑化の助成制度の活用による防災機能向上（NO.501と重複） 防災機能向上のための公園整備実施 小豆沢公園再整備（物資受援拠点）	A	みどりを活用した防災機能向上に向け、接道部緑化や公園の再整備等を実施したため。

評価基準 A：実施した、又は実績が向上した B：検討した、又は実施したが十分な効果なし
C：実施しなかった、又は実績が低下した

参考資料1

[6]公園の整備とリニューアル

事業別 (下線：重点プロジェクト)	事業概要等	平成30年度からの 取り組み状況	評価	評価の視点
6-1 公園の新設整備				
【NO.601】 新設公園の整備	公園率6.1%を目標値として整備を進めます。	R2年度 赤塚植物園農業園の開園 R4年度 志村坂公園の返還 R5年度 双葉町児童遊園の廃止 R6年度 小茂根四丁目公園の拡張 大門東の森公園の整備 (公園率の推移 H30→R5) 5.8%→5.9%	B	都立城北中央公園や赤塚植物園の増設等で増があつたものの、目標には達成しなかったため。
【NO.602】 まちづくり事業による公園・広場の整備	様々なまちづくり事業の中で、オープンスペースの確保を進めます。	検討中のまちづくり事業 大山町ピッコロ・スクエア周辺地区市街地再開発事業 大山町クロスポイント周辺地区市街地再開発事業 上板橋駅南口駅前東地区市街地再開発事業 上板橋駅南口駅前西地区市街地再開発事業 板橋駅板橋口地区市街地再開発事業 板橋駅西口地区市街地再開発事業	A	大山町クロスポイント周辺地区市街地再開発事業の施設建築物工事が完了したほか、その他の再開発についても継続して検討が進められているため。
6-2 公園の改修整備				
【NO.603】 公園の改修整備	地域ニーズや社会のニーズに応じた公園のリニューアル整備を進めます。	改修：9箇所 (H30) 大谷口児童遊園、(R2) 大谷口二丁目児童遊園、(R4) 三葉児童遊園、徳丸公園、(R5) 中台公園、東坂下二丁目公園、高島平九丁目第二公園、(R6) 高島平七丁目公園、山中児童遊園	A	改修工事の設計・施工により、公園のリニューアルを進めているため。
【NO.604】 公園トイレの改修整備	公園・公衆トイレの適正配置・改修計画に基づく整備を進めていきます。	改築：21か所 (H30～R6) リフォーム：3か所 (H30～R6) 撤去：1か所 (H30～R6)	A	公園・公衆トイレの適正配置・改修計画に基づき、改築・撤去・新設により、トイレの改修が着実に進められているため。
【NO.605】 公園遊具の改修整備	公園施設長寿命化計画に基づく計画的な更新整備を進めていきます。	更新：164基 (H30～R5) 修繕：417基 (H30～R5) 塗装：434基 (H30～R5)	A	公園施設長寿命化計画に基づき、遊具の更新・修繕・塗装が着実に進められているため。
【NO.606】 こどもの池の改修整備	老朽施設の改修を行いながら、20か所内外の施設規模に見直します。	R3年度 水遊び施設の整備方針の策定 改修：4箇所 (R5：3箇所) 中台公園改修工事 東坂下二丁目公園改修工事、高島平九丁目第二公園改修工事(R6:1箇所) 高島平七丁目公園	A	着実にこどもの池の改修工事を進めているため。
【NO.607】 公園灯のLED化	LED化の推進により、省エネ化とコストの縮減を図ります。	公園灯更新：1,774基 (R1～R6)	A	順調に公園灯をLED化したため。 (R6年度事業完了予定)
【NO.608】 公園内の傾斜地管理	斜面の安定性など、専門的な点検を行います。	H30～R1年度 調査 斜面補強工事2件 (R5：中台二丁目公園、R6：西台公園)	A	斜面地の安全性確保のための調査・設計・工事を行っているため。
6-3 主要な公園整備・改修事業				
【NO.609】 板橋区史跡公園(仮称)の整備	近代化・産業遺産を保存活用した、都内初となる史跡公園の整備を進めています。	R1年度 保存活用計画策定 R2年度 整備基本計画策定 R3年度～改修設計委託、都市計画図書の作成	A	板橋区史跡公園の、R11年度開設に向けた整備への取り組み(都市計画手続き、設計)が進められているため。
【NO.610】 小豆沢スポーツ公園(仮称)の整備	東京オリンピック・パラリンピック2020競技大会の開催に向けたスポーツ公園の整備をめざします。	令和2年度再整備工事完了	実施済	再整備工事済み。
【NO.611】 高島平プロムナードの整備	緑豊かなプロムナードの再整備により、地域のにぎわいを生み出します。	R5年度 交流核形成まちづくりプランの策定 試行的に、民間の有志団体と協働で高島平緑地活用イベントの開催 R6年度 高島平緑地再整備方針の策定予定	A	交流核形成まちづくりプランを策定した。また、活用イベント及び区民を対象としたアンケートを実施し、再整備に向けた検証を行っているため。
【NO.612】 こども動物園のリニューアル	子育て世代が親子で楽しめる施設としてリニューアルします。	R2年度 工事しゅん工・リニューアルオープン	実施済	リニューアルオープン済み。
【NO.613】 板橋公園(交通公園)の再整備	周辺環境の変化に対応した新たな公園として再整備します。	R3年度 基本構想策定 R5年度 基本計画策定 R6年度 公募設置指針の策定、事業者公募、基本設計 ※R9.3整備完成予定	A	再整備に向けた準備が進められているため。
【NO.614】 板橋区平和公園の再整備	中央図書館の移転と併せ、公園の再整備を行います。	令和2年度再整備工事完了	実施済	再整備工事済み。

評価基準 **A**：実施した、又は実績が向上した **B**：検討した、又は実施したが十分な効果なし
C：実施しなかった、又は実績が低下した

参考資料1

[7] みどりを楽しむライフスタイルの推進

事業別 (下線：重点プロジェクト)	事業概要等	平成30年度からの 取り組み状況	評価	評価の視点
7-1 みどりとふれあう機会づくり				
【NO.701】 グリーンフェスタの開催	緑の大切さをPRするイベントとして、毎年春季に開催します。	R2、R3年度（中止⇒新型コロナウイルスの影響による）を除き、イベントを開催した。R4年度：5/14～15 来場者数2,593人、R5年度：5/13～14 来場者数1,994人、R6年度：5/11～12 来場者数2,964人	A	緑を大切にする心を広く啓発するという目的に合致したイベントを開催できたため。
【NO.702】 緑のガイドツアーの開催	季節に合わせた緑の見どころを紹介するガイドツアーを開催します。	H30、R1、R4、R5年度は6回実施、R6年度12月末時点4回実施 R2年度のみ3回実施（新型コロナウイルス流行の影響で2回中止）	A	季節に合わせてガイドツアーを開催できたため。
【NO.703】 みどりの街歩きの魅力向上	接道部緑化や公園整備などを通じてみどりの街歩きの魅力向上を図ります。	R4年度 緑と公園の推進会議内で赤塚植物園を拠点とした街歩きガイドツアーを検討した。 R5年度 「いたばしまちあるきマップ」に見次公園、薬師の泉庭園、五本けやき等を掲載した。（継続）	A	マップを作成して公開することができたため。
7-2 みどりについて学ぶ機会づくり				
【NO.704】 赤塚植物園の緑の講習会・展示会の開催	緑化啓発の拠点施設として、各種園芸講習会、展示会を開催します。	R3年度 講習会10回実施 R4年度 講習会7回実施、展示会8回実施 R5年度 講習会9回実施、展示会6回実施 R6年度12月末時点 講習会2回実施、展示会7回実施	A	赤塚植物園での講習会・展示会を定期的に実施できたため。
【NO.705】 環境教育の推進	板橋区環境教育推進プラン2025に基づく取り組みを進めます。	区内小中学校・保育園・幼稚園等への環境教育プログラム提供、その環境教育の様子をyoutubeで公開 環境教育カリキュラムの提示 エコポリスセンターで区民向けの指導者養成講座・教員・保育士等に向けた研修実施 各種イベントの実施 1 農業体験プログラムの実施 2 自然体験イベントの実施 3 農業園ボランティアの実施	A	板橋区環境教育推進プランに基づくプログラムや、農に触れあえる機会の創出に努めたため。
7-3 みどりを楽しむライフスタイルへのサポート				
【NO.706】 緑化推進機材の貸出し	緑の手入れに必要な緑化推進機材の貸出しを行います。	地域センターにて、刈込ばさみと高枝切りばさみの貸出（R1～R5実績：992件貸出）	A	緑化推進機材を貸し出すことができたため。
【NO.707】 ビギナーズ講習会などの開催	みどりを楽しむライフスタイルのきっかけづくりとなるような講習会等を開催します。	赤塚植物園での講習会（NO704と重複） R3年度 講習会10回実施 R4年度 講習会7回実施、展示会8回実施 R5年度 講習会9回実施、展示会6回実施 R6年度12月末時点 講習会2回実施、展示会7回実施 【緑化教育指導員に係る区民★フタギ活動・植物観察会・緑化相談の実施】 R4～R6年度12月末時点の実績 花づくり★フタギの指導：609人/88回 植物観察会：250人/20回（R4：7回、R5：7回、R6：6回） 緑化相談：1085人/33か月	A	様々な対象に向けた講習会等を開催することにより、みどりを楽しむきっかけづくりができたため。
【NO.708】 ガーデニングの成果を発表する機会など、みどりを楽しむ機運の醸成を図ります。	ガーデニングの成果を発表する機会など、みどりを楽しむ機運の醸成を図ります。	R4年度 グリーンフェスタフタギコンテスト開催 赤塚植物園展示会 R4年度 8回実施、R5年度 6回実施、R6年度 7回実施（12月末時点）	A	コンテストや展示会を開催し、みどりを楽しむ機運の醸成を図ることができたため。
7-4 区民提案による企画支援制度の検討				
【NO.709】 区民提案による企画支援制度の検討	※ 区民や事業者の自主的な活動を支援する仕組みを検討します。	未実施	C	具体的な制度導入の検討ができなかったため。
7-5 みどりをはぐくむ協働活動の推進				
【NO.710】 花づくりボランティア活動	地域の協力を得て、公園花壇の花づくりの輪を広げていきます。	(H29.4→R6.12の推移) 公園数：83公園→80公園（▲3公園） 活動グループ数：81グループ→84グループ（3グループ）	A	公園数は減ったものの活動団体数は増えており、ボランティアに関われる機会が増えたと考えられるため。
【NO.711】 地域がつくる公園制度による美化活動	公園美化活動の輪を広げ、地域コミュニティの醸成につなげます。	公園数：29公園（H30）→27公園（▲2公園）（R6） 活動グループ数：27グループ（R2.8）→26グループ（▲1グループ）（R6）	C	制度の活用は継続できているが、活動公園数・団体数が減少しているため。
【NO.712】 「板橋区の森」での森林ボランティア活動	「板橋区の森」や区内公園において、樹林の手入れ活動を行います。	H30～R6年12月末時点の実績 板橋の森での作業 12回 区内作業 24回	A	板橋区の森での管理作業及び区内での作業を継続的に行うことができたため。
【NO.713】 公園刈り込みボランティアによる緑の手入れ	誰でも気軽に参加できる公園樹木の刈り込みイベントを開催します。	H30～R6年度の実績（R2年度は中止） 開催数：33回 参加人数：88名	A	誰でも気軽に参加できるボランティア作業として、継続して実施することができたため。
7-6 みどりの情報発信				
【NO.714】 様々なメディアを活用した情報発信	みどりがより身近なものになるような情報発信の充実に取り組みます。	R1年度以降、X(旧ツイッター)による情報発信を実施（R6.8時点でフォロー数3,200人超）、ホームページによる情報発信を継続 主に、グリーンフェスタやガイドツアーの開催、農業園事業について発信	A	継続して魅力発信に努めたため。

評価基準 **A**：実施した、又は実績が向上した **B**：検討した、又は実施したが十分な効果なし
C：実施しなかった、又は実績が低下した

参考資料1

【NO.715】 みどりの情報交換の場 づくり	みどりの協働活動グループ同士の 情報交換・交流の場づくりに 取り組みます。	R4、R5年度 交流紙により、花づくりグループが活動している公園の紹介記事、草花の種類の 紹介など、グループ同士の情報交換の一助としている。（春秋の計2回）	A	継続して交流紙を作成し、グループ同士の交流に努めているため。
-------------------------------	---	--	----------	--------------------------------

評価基準 A：実施した、又は実績が向上した B：検討した、又は実施したが十分な効果なし
C：実施しなかった、又は実績が低下した

参考資料1

[8] みどりと人をつなぐ仕組みづくり

事業別 (下線：重点プロジェクト)	事業概要等	平成30年度からの 取り組み状況	評価	評価の視点
8-1 みどりと人をつなぐコーディネート組織の導入				
【NO.801】 コーディネート組織の 導入	協働活動の活性化に向けた コーディネート組織の導入をめざ します。 (Ⅰ期) 検討 (Ⅱ期) 準備 (Ⅲ期) 試行	R1～R4年度 公園が本来持つ様々な効果をより高く発揮させ、適正かつ柔軟な公園管理により多種多様な区民ニーズに対応することを目的とし、民間事業者による事業展開の可能性調査を実施。R4年度には高島平緑地にPark-PFIの公募を実施（不調）。 R2年度 東板橋公園及び徳丸ヶ原公園に指定管理者を導入し、地域との連携強化を図る。 R7年度（予定） 赤塚植物園に指定管理者を導入し、地域との連携強化を図る。	B	こども動物園では、区内在住の小中学生が動物の飼育や接客等を行う「こども動物クラブ」を実施している。また地域の方々に公園の美化活動に参加いただく「地域がつくる公園制度」など様々な“みどり”と人をつなぐ区民との協働を実現できている。また、赤塚植物園でも令和7年度より指定管理制度を導入し、地域の協働活動の拠点とする予定であり、様々な成果を挙げられたと言えるが、計画で掲げているコーディネート機能を持つ組織の導入には至っていないため。

[9] 公園を使いこなす仕組みづくり

事業別 (下線：重点プロジェクト)	事業概要等	平成30年度からの 取り組み状況	評価	評価の視点
9-1 板橋区パークマネジメントガイドラインの運用				
【NO.901】 公園活動コーディネ ート組織の導入 【再掲：みどりと人をつ なぐコーディネート組織 の導入】	産官学民の協働による公園運 営をより活性化するためのコー ディネート組織の導入をめざし ます。 (Ⅰ期) 検討 (Ⅱ期) 準備 (Ⅲ期) 試行	NO801と同じ	B	NO801と同じ
【NO.902】 区民などが企画するイ ベントの受入体制の 充実	公園利用の活性化に向けたイ ベント等の受け入れ体制を充 実します。 (Ⅰ期) 検討 (Ⅱ期) 準備・導入 (Ⅲ期) 運用	公園を利用するための申請に応じて許可をすることで受け入れを実施。 町会主催のイベントについては、キッチンカーの導入を許可。(R5年度) こども動物園において、企業からの「ロボットプログラミング」(R5年度)、個人からの「親子英語リミック」(R5年度)を受け入れた。	A	キッチンカーの導入について、許可基準を見直すことができた。また、町会主催のイベントに対してこれまで許可してこなかったキッチンカーの導入を許可することができた。これに加え、こども動物園を活用し、個人・企業のイベントの企画を受け入れることができたため。
【NO.903】 手軽で利用しやすい バーベキュー場の運営	荒川戸田橋緑地のバーベ キュー場の利便性を高めます。 (Ⅰ期) 検討 (Ⅱ期) 準備・導入 (Ⅲ期) 運用	H30～R2年度：検討（指定管理者や設置管理許可等、手ぶらでBBQの実現に向けた検討や他自治体へのヒアリング） R5～R6年度：かわまちづくりの中で、緑地全体の利活用を検討	B	かわまちづくりにおいて、バーベキュー場も含めた整備内容を検討しているため。
【NO.904】 利便施設の導入	キッチンカーや臨時店舗の出店 を推進し、公園のにぎわいを増 進します。 (Ⅰ期) 検討 (Ⅱ期) 準備・導入 (Ⅲ期) 運用	R2年度：東板橋公園にキッチンカー導入 R3年度：小豆沢公園でキッチンカーの試行営業	A	東板橋公園で継続的に導入することができた。 また、小豆沢公園や高島平緑地で、にぎわい増進に向け、社会実験としてキッチンカーを導入できたため。
【NO.905】 犬と歩ける公園の設 定	公園利用の使い分けを整理 し、犬と歩ける公園を設定しま す。 (Ⅰ期) 検討、試行 (Ⅱ期) 試行 (Ⅲ期) 運用	比較的面积を有する45公園を犬の連れ込み制限解除対象とした。(H31.4から施行)	実施済	条例改正により、犬と歩ける公園を設定したため。
【NO.906】 受動喫煙防止に向け た対応	公園の特色に応じ、禁煙とする 公園の設定や、受動喫煙防止 に向けた対策を強化します。 (Ⅰ期) 検討 (Ⅱ期) 試行・運用 (Ⅲ期) 運用	区立公園の全公園を全面禁煙とした。(R3.4から公園条例の一部改正を施行)	実施済	条例の改正により、区立公園の全公園における全面禁煙を実施したため。
【NO.907】 安心安全カメラの設 置	安心して公園利用ができるよ う、安心安全カメラの設置を進 めます。 (Ⅰ期) 検討 (Ⅱ期) 準備・導入 (Ⅲ期) 運用	安心安全カメラの引き続きの管理に加え、R6年度からは防犯カメラ付き自動販売機を8公園に設置した。	A	従来の安心安全カメラの増設に加え、防犯カメラ付き自動販売機の設置を行ったため。